

平成 27 年松本市議会 12 月定例会

市長提案説明

[27.11.30(月) PM1:00]

本日ここに、平成 27 年松本市議会 12 月定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様方にはおそろいでご出席をいただき、厚く御礼を申し上げます。

まず、冒頭、松本市立病院で発生いたしました医療事故について、申し上げます。

去る 11 月 13 日に、胃内視鏡検査に使用する薬剤を取り違えるという医療事故が発生いたしました。

松本市立病院では、日ごろより、地域の皆様から信頼され、患者さん中心の安心と安全に配慮した医療の提供を理念とし、地域医療の向上に向け運営してまいりました。

しかしながら、大変残念なことに受診された皆様とご家族に大変ご迷惑をお掛けし、また、多くの皆様にご心配をお掛けすることになり、設置者として大変遺憾に思うところでございます。

心からお詫び申し上げます。

私といたしましては、院長をはじめ関係者に対し、厳重に注意をすると共に、再発防止策を講じ、失った信頼を取り戻すため、医療の安全確保について、これまで以上の危機感を持って真摯に取り組むよう指示したところでございます。

なお、事故の概要等につきまして、本日の本会議終了後、担当委員協議会にご報告申し上げますのでよろしくお願いいたします。

それではまず、11 月 5 日、6 日の両日に開催されました「第 5 回世界健康首都会議」について申し上げます。

5 回目の節目となる今回は、「市民と共に創る『健康寿命』とヘルスケア産業」をテーマに、市民一人ひとりの健康増進と、健康・医療産業が下支えをする持続可能なまちづくりについて、原点に立ち戻って企画、開催いたしました

た。

会議のパネルディスカッションにおきましては、<sup>こみやま</sup>小宮山<sup>ひろし</sup>宏三菱総合研究所理事長から、世界健康首都会議が開催されてからの5年間における成果として、「市民ニーズを共創により産業化することを目指す『松本ヘルス・ラボ』が設置されたことで、健康産業の基盤が整った」とのお話をいただきますとともに、「今後新たな局面として、医療・福祉に携わる人材育成を考えながら、具体的に持続可能な健康・医療分野の産業化を目指すべき」とのご提言をいただきました。

また、「松本市民が健康に対する高い意識と健康文化に誇りを持つことが重要である」との総括をされております。

今後も、ヘルス・ラボの仕組みを活かした「健康寿命延伸」を松本発の取組みとして、具体的な成果を発信し、更には、厚生労働省を始めとする国の関係機関の参画などを得て健康首都会議を真の世界的な国際会議へ展開していくことが期待されるところでございます。

次に、去る9日、10日に、「第5回平和首長会議国内加盟都市会議」が広島市で開催され、私も出席してまいりました。

今年の会議では、昨年、松本市で行い、参加された多くの自治体の皆様から高い評価をいただきました、次代を担う子どもたちや若者たちの平和に対する取組報告などが今回取り入れられ、広島市の小中学生や高校生から、日頃の平和活動に関する報告がございました。

昨年の松本市の子どもや若者たちの平和を願う純粋な思いが、広島に平和の連鎖として広がりましたことを大変嬉しく思っております。

一方、この平和首長会議に先立ち、今月1日から5日まで、長崎市では、核兵器と戦争の廃棄を目指す「パグウォッシュ会議」の第61回世界大会が開催されましたが、一部大国の政府出席者からは、子どもたちの純粋な思いとは、かけ離れた、これまでと同じ核抑止論が繰り返され、核兵器廃絶の道

を示すに至らなかったことは大変残念なことでした。

このような中、来年度、松本市が平和都市宣言を行ってから30周年を迎えることにより、「平和を創る」取組みとして、「国連軍縮会議」と「平和首長会議国内加盟都市会議」に続き、国内で開催している主要な平和関連会議の一つである「日本非核宣言自治体協議会」の総会を、来年5月に開催することといたします。

この協議会は、昭和59年に設立され、これまで長崎市長が会長を務められてきたものであり、「核兵器の使用が人類と地球の破滅をもたらすことに鑑み、生命の尊厳を保ち、人間らしく生活できる真の平和実現に寄与するため、日本を始め世界の自治体に核兵器の廃絶と平和宣言を呼びかけること」を目的に活動しており、このたび年度当初より、長崎市の田上富久市長から松本市での強い開催依頼があり、お受けするものでございます。

この総会を機に、これまで以上に、戦争のない世界を引き継ぐ人材育成や、次代を担う子どもたちへの平和意識の醸成が図られ、平和の連鎖が更に広がるものにすることが大切であると考えております。

次に、「友好都市・中国廊坊市への公式親善訪問」について申しあげます。

去る23日から26日までの日程で、私を団長に、市議会近藤副議長のほか、市民の皆様総勢14名で、廊坊市を訪問してまいりました。

今回の廊坊市訪問は、私にとって市長就任1期目の平成17年以来、10年振りの訪問でございましたが、廊坊市の憑韶慧市長を始め、多くの関係者の皆様に温かくお迎えをいただき、これまでの思い出を語り、友好提携10周年に廊坊市人民公園に友好の証として植樹した、桜の苗木100本の確かな成長を確認し、今後も変わることなく両市の交流を続けていくことをお約束してまいりました。

また、廊坊市滞在中は、相澤病院と友好病院協定を締結し

て交流を図っている廊坊市人民病院を始め、清水中学校と交流のある廊坊市第2中学校も訪問してまいりました。

とりわけ、廊坊市第2中学校の訪問においては、清水中学校からお預かりしたメッセージや生徒の作品の絵画並びに書をお渡しいたしました。が、国を越えた人と人との温かなつながりに触れ、両市の交流の確かな広がりを感じたところでございます。

今後も、両市の変わらぬ友好関係が末永く続いていきますよう市民相互の交流を大切にしていきたいと思います。

次に、「台湾高雄市との交流」について申しあげます。

去る25日から28日までの日程で、健康福祉部長を団長に、職員6名を高雄市に派遣いたしました。

今回の高雄市訪問は、昨年、私が高雄市を訪問し、陳菊市長と懇談する中で、健康を切り口とした高齢者の交流などを積極的に進めることをお約束し、本年7月に、高雄市の呉宏謀副市長一行が本市を訪問された際に締結した、「健康・福祉・教育分野の交流に関する覚書」に基づく交流の一環として行ったものでございます。

高雄市では、担当職員や市民を対象に「地区福祉ひろば事業」の「ふれあい健康教室」を紹介するなど、松本市の健康寿命延伸施策について海外に向けての情報発信をさせていただいたほか、今後の交流についても意見交換を行ってまいりました。

両市とも、急速に進展する超少子高齢型の人口減少社会への対応を市政運営の最重要課題と位置付けていることから、今後も、健康・福祉に関する施策の情報交換を始めとし、台湾、日本両国の健康寿命延伸の輪が更に広がるよう、交流を一層深めることが必要不可欠と認識した次第でございます。

次に、皆様ご承知のとおり、去る22日の第17節をもちまして、松本山雅FCのJ1における初めての挑戦が終了いたしました。

振り返りますと、松本市民と多くのサポーターや地域の皆様の熱い期待とともに迎えた、夢の舞台であったわけですが、予想通り昨年のJ2とは、次元の異なるJ1での大変厳しい戦いとなりました。

しかしながら、反町監督の指揮の下、最後まで決して諦めることなく、走り抜く山雅スタイルを貫き、名立たるクラブに勇気を持って立ち向かい、松本市民を始め、多くのサポーターの皆様に大きな感動を与えてくれましたことに対し、松本市民を代表して心より感謝を申し上げます。

来季は、再びJ2からのスタートとなるわけですが、反町監督が引き続き指揮を執られることを大きな喜びとし、ホームタウンの松本市といたしましては、今後ともできる限りの支援をしてまいりますとともに、松本山雅FCの来季の奮起を強く願うところでございます。

それでは、この際、松本市が抱えております懸案事項等について、若干申しあげたいと存じます。

始めに、「信州まつもと空港とFDA」について申し上げます。

ご承知のとおり、去る2日、まつもと空港におけるFDAの10月の利用状況が発表されました。

大変嬉しいことに、福岡便の利用者数は、昨年同月比2,973人増の7,038人となり、利用率は、前年同期を12.0ポイント下回るものの、初めて70パーセントを超えるとともに、複便化維持の目安とされる65パーセントを3カ月連続で上回りました。

これは、県を始め関係団体などとも連携を図りながら、複便化を生かした旅行商品の造成や、助成制度の期間延長などにより取り組んでまいりました、利用促進の成果の現れと考えているところでございます。

また、札幌便におきましては、利用率は前年同月比1.3ポイント増の81.2パーセントとなり、高い利用率を維持しております。

今後は、地方創生先行型交付金事業である海外誘客に向け

た、広域観光ルートの創出を目指す「超広域観光ビジット3事業」にも取り組みながら、札幌便、福岡便の利用率向上に一層努めてまいります。

次に、「松本市立病院整備のあり方に関する将来構想」について申し上げます。

松本市立病院は、波田総合病院の時代から、これまで長く松本医療圏における西部地域の基幹病院として、救急医療や地域医療を担ってまいりました。

このような中、施設の老朽化・狭隘化への対応、更には、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる、いわゆる「2025年問題」や国の地域医療構想ガイドラインに示された、地域医療における「役割の明確化」などへの対応が喫緊の課題となっております。

今後、10年、20年先を見据える中で、公立病院として良質な医療サービスを持続的に提供していくために必要となる、病院整備計画の基本的な方向性を将来構想としてまとめるため、今年度は、将来にわたる医療需要や医療機能の分析など目下「基礎調査」を進めているところでございます。

このことについて、間もなく調査結果がまとまりますことから、報告書ができ次第、議会にもご報告してまいります。

その後、「将来構想」の策定についてご協議申しあげてまいります。

次に、「イオンモール東松本開発計画」について申し上げます。

9月定例会の提案説明において、「松本市と岡崎前社長を始めとした関係者との信頼関係のもと協議を続けている中で、通称日ノ出町通りを挟んで北側に位置する敷地の建物を地上4階から3階に低層化し、併せて規模の縮小を検討している」とご報告申しあげたところでございます。

その後、引き続き精力的に協議を続ける中で、未だ全容は明らかになっておりませんが、現時点でのイオンモール側からの新たな検討内容について申し上げます。

まず、日ノ出町通りの「北側の建物」規模については、先

に申しあげたとおりでございますが、通りの「南側の建物」は、飲食関係をメインとする店舗構成とし、「北側の建物」と日ノ出町通りを横断する上空連絡通路で結ぶ案が示されております。

更に、「あがたの森通りに面した敷地の建物」については、当初の計画では、1、2階建ての店舗形態で、オープンモール化を目指しておりましたが、降雪時や悪天候時の来店者への影響を考慮し、屋根付きモールへの変更が検討されております。

このことにより、従来の開放的な店舗形態から囲い型の店舗形態になり、外部との開放性が後退することが懸念されます。

松本市といたしましては、建築物の意匠やデザインについて松本市の景観特性並びに回遊性の確保に更に配慮するよう求めてまいります。

また、今後できるだけ早い段階で店舗内容も含めた全容について明確に公表するよう働きかけてまいります。

続きまして、「現在の日本経済の動向と、新年度の予算編成方針」について申しあげます。

今月6日の内閣府の発表によりますと、9月の景気動向指数は、個人消費の低迷から、3カ月連続で下落しており、基調判断も「足踏み」で据え置かれております。

また、日銀は、10月に発表した「短観（9月調査）」において、業況判断指数（DI）が前回の6月調査に比べ、大企業・中堅企業・中小企業を合わせた全産業トータルで1ポイント改善し、「個人消費も底堅く推移している」ことから、我が国の景気判断を据え置き、「緩やかに回復を続けている」としておりますが、製造業においては、大企業の業況判断指数（DI）が悪化していることから、「輸出・生産面に新興国経済の減速の影響が見られる」としております。

また、先行きについては、「緩やかな回復基調を続けていくとみられる」としておりますが、「新興国・資源国経済の動向、欧州における債務問題の展開」などが「リスク要因」だとしております。

次に、長野県の経済状況について、日銀松本支店は、今月6日発表の「長野県の金融経済動向」において、「設備投資は緩やかに増加」し、「個人消費は一部に弱さが見られるものの、緩やかに回復しつつ」あり、「雇用・所得は、着実な改善が続いている」とする一方、「企業の景況感」は、製造業で悪化・非製造業で横ばいとなっていることから、長野県経済は、前回に引き続き「緩やかに回復しつつある」としつつも、国の動向と同様に、「生産に新興国経済の減速の影響などがみられるものの」との前置きを付しております。

一方、松本市に目を転じますと、8月を対象期間とした中小企業景気動向基本調査では、松本市における全産業での業況DIは、前年同月比マイナス6.9ポイントと前月に比べマイナス幅が縮小したものの、18カ月連続でマイナスが続いており、また、今後の見通しについても「変わらない」とする企業が大部分であることから、松本市を取り巻く経済環境は、依然、厳しい状態が続いていると言えます。

こうした状況から考えますと、景気が緩やかに回復しているとされているものの、地方への波及は未だ限定的であり、松本市の今後の財政見通しは、歳入の根幹をなす市税を始めとした、自主財源の大幅な伸びは期待できないところでございます。

特に、市税収入においては、業績の回復が大企業や一部の中小企業に限られ、全体には波及していないことから、法人市民税などの大幅な増額は望めない状況にあるとともに、固定資産税も、一部で地価の上昇による税収増が出始めているものの、引き続き大幅な増額は見込めない状況にございます。

加えて、地方交付税においては、市町村合併の特例である「合併算定替え」が終了となり、今後、段階的に縮減が行われていきます。

その影響額は、合併市町村に対する支所経費分の上乗せ措置などの制度改正が行われてはおりますが、依然として24億円程度となる見込みであり、当分の間、前年度対比で減額が続く見込みとなっております。

したがって、市の一般財源の確保は、なお樂觀できない状況にございます。



また、国が、「消費税率引上げに伴う『社会保障４経費』の充実など、『社会保障と税の一体改革』における制度改革や、それに伴う地方負担の具体的な取扱いについては、予算編成過程で検討する。」としていることから、地方への影響は未だ不透明な状況でございます。

次に、このような状況のもとで編成してまいります、新年度の当初予算について申し上げます。

ご承知のとおり、平成２８年は、市長選挙の年に当たるため、２８年度当初予算は骨格予算としての編成となりますので、基本的な考え方について申し上げます。

新年度は、新たな松本市の総合計画「基本構想２０２０」に基づく「第１０次基本計画」の初年度となります。

具体的な取組みを示す「第１０次基本計画」は、現在、策定中となっておりますが、「基本構想２０２０」に掲げる「６つのまちづくり」による「健康寿命延伸都市・松本」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。

また、「地方創生」につきましては、１０月に策定いたしました「松本市版総合戦略」の着実な実行を目指し、積極的に取り組むこととしております。

それでは、ただいま上程されました議案について、一括してご説明申し上げます。

本日提案申しあげました議案は、条例７件、予算１件、財産３件、道路１件、公の施設の指定管理者の指定など７件の、合わせて１９件となっております。

まず始めに、条例について申し上げます。

いわゆる「マイナンバー制度」により、個人番号等の利用について必要な事項を定める条例制定１件、地方税法等の改正等に伴うもの、平成２５年から整備を進めてまいりました南松本の福祉関係複合施設が、このたび「なんぷくプラザ」の愛称を得て、いよいよ来年１月から供用開始となりますことから、複合施設に設置される南部保健センターの移転改築

に伴うものなど、条例改正6件を提出しております。

次に、補正予算について申し上げます。

まず、「地方創生先行型」として採択されました4事業について、計4,100万円を計上いたしております。

これは、地方版総合戦略の達成を支援するため、国が平成26年度補正予算に計上した「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金」1,700億円の内、300億円を平成27年度へ繰り越し、「地方創生先行型上乗せ交付分」として、地方公共団体から事業提案を受け付けていたものでございます。

先般、この上乗せ交付分につきまして、松本市の提案が採択されたことを受け、関係経費を計上したものでございます。

まず、始めに、先ほども申しあげましたが、信州まつもと空港の空路を活用し、本市と交流都市関係にある札幌市及び鹿児島市を結ぶ、これまでにない超広域観光周遊ルートを構築し、外国人旅行者の誘客に取り組む「超広域観光ビジット3事業」に対し、国の交付金に一般財源1,000万円を加え、3,100万円を計上しております。

また、松本市の農産物のブランド化推進や消費宣伝、並びに地産地消の取組みを進める「松本産品のブランド化事業」に対する関連経費1,000万円を計上しております。

そのほか地方創生関係以外の補正予算といたしましては、歩行者優先の道路環境整備を進めるため、縄手通りが、来年3月から、24時間の歩行者専用道路となることに合わせ、自動昇降式車止め装置「ライジングボラード」を設置するための経費4,247万円を計上しております。

更に、小中学校の施設整備について国の補助内示が遅れ、事業実施時期の大幅な見直しを迫られたことから、これに伴う関連予算の整理並びに繰越明許費を合わせて計上しております。

次に、財産といたしましては、アルプス公園整備事業用地、松本都市計画道路3・2・12号 内環状北線整備事業用地、松本城南・西外堀復元事業用地の取得を提出しております。

その他の議案といたしましては、市道の認定1件、<sup>あざ</sup>字の廃止及び<sup>あざ</sup>字の区域の変更のほか、松本市民プール、美鈴湖もりの国など、6つの公の施設に係る指定管理者の指定に関する議案など、7件を提出しております。

また、議案以外のものとして、市長の専決処分事項の指定にかかわる報告3件を報告いたしております。

なお、今会期中には、「固定資産評価審査委員会委員の選任」に係る人事案件について、追加提案をさせていただく予定でございます。

以上、本日提案いたしました議案等について、ご説明申しあげましたので、よろしくご審議を賜りますようお願い申し上げます。

(以上)